



今月は喘息、咳喘息についてのお話です。

★喘息(気管支喘息)の特徴★

喘息は発作的に「ゼーゼー」という音を伴う呼吸困難と咳を繰り返す病気です。子供の時に発症して、思春期から青年期にかけて50%の人の症状が落ち着きます。

病型は小児喘息の大半(70~90%)はダニを原因アレルゲンとするアトピー型ですが、成人喘息では非アトピー型(タバコの煙などアレルゲン以外の誘因)が多くなります。

喘息の発作は、夜間や早朝におこりやすいのが大きな特徴です。

その他、喘息症状がおこりやすいとき…。

- ・季節の変わり目など、気温差がはげしいとき
- ・天気がよくないとき、変わりやすいとき
- ・疲れているとき
- ・風邪をひいたとき
- ・発作を引き起こす刺激に触れたとき
(タバコの煙、線香の煙、強い臭いなど)



ぜんそくは「気道の炎症」

健康な人の気道

ぜんそくの人

タバコの煙、アレルゲン(花粉、ホコリなど)、運動、ストレス、冷氣、風邪など

気道に炎症が起こると、気管支平滑筋が収縮し、気道粘膜が腫れ、粘液が出ることで、気道が狭くなって発作が起こります。

発作の時は激しい咳や呼吸するたびに「ゼーゼー」「ヒューヒュー」という音が鳴ります。(ぜんめい)

★咳喘息は、喘息の一步手前の状態です。★

- ・風邪のあとに咳だけがいつまでも残り、風邪薬や咳止めを飲んでも効かない
- ・3週間以上慢性的な空咳が続いている
- ・ゼーゼー、ヒューヒューという呼吸音や呼吸困難はない
- ・気管支拡張薬や吸入ステロイド薬が効果をあらわす
- ・咳は夜間から明け方にかけて出ることが多い
- ・冷たい空気やタバコの煙などの刺激、会話中や運動中に咳き込みやすい
- ・胸部レントゲン検査で異常がない
- ・アレルギーがある

★気道のアレルギー性炎症の強さを評価する！呼気NO測定★

気道の好酸球性炎症のレベルとそのコントロールの評価を、呼気中のNO(一酸化窒素)で測定出来ます。

呼気中のNO濃度は、気道に好酸球性炎症があると上昇します。当院にも検査機器を設置していますので、該当症状が気になる方はご相談ください。



*一宮市癌検診、国保特定健診が始まりました。

検診期間は5月~10月末までです。

お早めに検査を受けましょう。

いそむらファミリークリニック